

セーフティ プロモーション スクール
(Safety Promotion School : SPS)
認証申請書



大阪教育大学附属幼稚園

日本 Safety Promotion School 協議会

令和8年1月

目次

はじめに

I. 幼稚園概要	1
II. 幼稚園統計	1
III. 本園教育の概要	3
IV. SPSの7つの指標	6
V. 7つの指標に基づいた取り組み	
指標-1	7
指標-2	10
指標-3	11
指標-4	13
指標-5	15
指標-6	17
指標-7	18
VI. 災害安全の実践内容(防災体験会の取り組み)	19

はじめに

大阪教育大学の附属学校園は、池田地区、天王寺地区、平野地区の3地区に分かれています。池田地区と天王寺地区は、小学校、中学校、高等学校校舎の3校が存在しており、平野地区には、附属の幼稚園、平野小学校、平野中学校、高等学校平野校舎、特別支援学校の五校園が徒歩圏内に存在しています。この大阪教育大学附属11校園では、ここ大阪の地で社会的使命を果たすため、日々それぞれの校園で様々な取り組みが行われています。とりわけ平野五校園の特色としては、五校園が隣接する全国的にも珍しい環境下で、相互に様々な交流や共同研究を行いながら、防火・防災、防犯などの学校安全に関する取り組みを協同的に進めている点が挙げられます。そして本園においては、平野区役所や平野消防署、平野警察署、地域の人々と連携しながら防火・防災・防犯等の学習を実施し、その成果をウェブページ等で発信してきました。このような経緯を踏まえて、本園が学校安全を推進する理由として以下の3つが挙げられます。

1. 大阪教育大学附属幼稚園に求められる安全教育

安全な社会を実現することは、全ての人々が生きる上で最も基本的かつ不可欠なことであり、子どもたちが心身ともに健やかに育つことは、国や地域を問わず、時代を越えた、全ての人々の願いです。学校安全とは、学校環境において児童生徒、教職員、及び学校を訪れる人々の身体的・感情的・精神的な健康と安全を確保するための対策とプロセスを指します。

学校管理下で発生している事故等のデータや犯罪被害、交通事故、自然災害の発生状況を見ると、幼児・児童・生徒等が巻き込まれる被害件数等は、全体として減少しているところではありますが、幼児・児童・生徒等の安全の確保という点では引き続き課題が多い状況であると言えます。また、附属幼稚園に通う幼児の安全に関する課題を考えると、幼児の発達段階や障害の種類・程度に応じて留意すべきポイントも多岐にわたります。そして時間の経過とともに、附属池田小学校事件や東日本大震災等の記憶が風化し、学校安全に係る意識や取り組みの優先順位が低下することが危惧されています。一方で、今後発生が懸念される首都直下地震や南海トラフ巨大地震、全国各地で発生している豪雨や熱中症アラート等の自然災害、感染症や交通事故・犯罪等に係る社会情勢の変化など、新たな課題が次々と顕在化し、喫緊の対応が求められています。

以上のことから、今後、附属幼稚園における組織的な安全管理の一層の充実を図り、安全で安心な学校環境を整備するとともに、障害のある児童生徒がいかなる状況下においても自らの命を守り抜き、安全で安心な生活や社会を実現するために主体的に行動する態度を育成する安全教育を一層推進していきたいと考えています。

2. 幼児への安全学習と安全指導

本園には様々な地域から登園してくる園児が在籍しており、多くの幼児が地下鉄やバス等の公共交通機関、自家用車や自転車を利用しています。保護者と共に通園していますが、心身の安全のためには幼児であろうと危険を予測し、安全な行動が求められます。また、

本園の幼児の多くは附属平野小学校に進学し、小学校からは児童のみで通学するようになります。

しかし、幼児の登降園や幼稚園生活の様子を見ると、状況が把握できずに危ない行動をしたり、保護者が一緒でもマナーが悪くなったりすることがあります。そのため、親子と一緒に安全に関する基礎・基本的事項を理解し、安全について判断ができるような「安全学習」を推進していく必要があると考えます。そして、近い将来直面するリスクのある事故や災害等を含めた諸課題に対して、安全を保持増進する実践的な能力や態度の向上、さらには望ましい習慣の形成をめざした「安全指導」を行う必要があります。

このような内容は、教育課程における安全教育における避難訓練や安全教室と位置づけられていますが、その機会に限らず、日々の生活の中で積極的に取り組んでいく必要があります。

3. 大阪教育大学附属校園 平野地区における使命

平成13年6月8日に起きた附属池田小学校事件を教訓として、本学の池田地区にある附属池田小学校、附属池田中学校、附属高等学校池田校舎では、保護者、関係諸機関、地域と連携を図り、学校安全に取り組んでいます。

本園属している平野地区においても、附属幼稚園、附属平野小学校、附属平野中学校、附属高等学校平野校舎、附属特別支援学校という全ての校園種がある特色を活かして、それぞれの学校園における過去の取り組みの経験等を踏まえ、保護者や関係諸機関、地域との連携を強化しながら学校安全に取り組んでいきます。具体的には、平野地区で考える学校安全教育として、平野区と令和7年3月13日にと防災に係る協力体制に関する協定を締結しました。このことにより、災害時における被災者及び避難者に対する支援体制と平時における防災教育の充実を平野区と取り組んでいきます。そして、幼児児童生徒等が、日常生活全般における安全確保のために必要な事項を実践的に理解し、自他の生命尊重を基盤として生涯を通じて安全安心な生活を送る基礎を培うとともに、ダイバーシティ&インクルージョン(Diversity & Inclusion)を基本とする社会の実現に向けて、進んで安全で安心な社会づくりに参加し貢献できる資質・能力を育成する「平野モデル」の構築をめざします。

また、平野地区で考える学校安全管理については、個々の幼児児童生徒等の発達段階及び障害の種類や程度等を踏まえ、学校環境における事故要因や幼児児童生徒等の学校生活における行動のリスク要因を早期に発見し、それらの速やかなる除去・低減を図るとともに、万が一事故等が発生した場合に適切な応急手当や安全措置ができるような体制を確立して幼児児童生徒等の安全確保を図ります。その際の安全管理として、幼児児童生徒等の心身状態の管理、様々な行動や生活の管理からなる対人管理、さらには学校の環境管理の一環である対物管理などを踏まえた方策を講じ実践します。

「安全で安心な学校」は「豊かな学び」を創造し「豊かな心」を育みます。本校は平成13年6月8日に発生した附属池田小学校事件を教訓に、平野地区にある大阪教育大学附属五校園の一角として、池田地区、天王寺地区とも力を合わせながら、共に安全・安心な学校づくりを日本全国、そして世界に発信していきます。

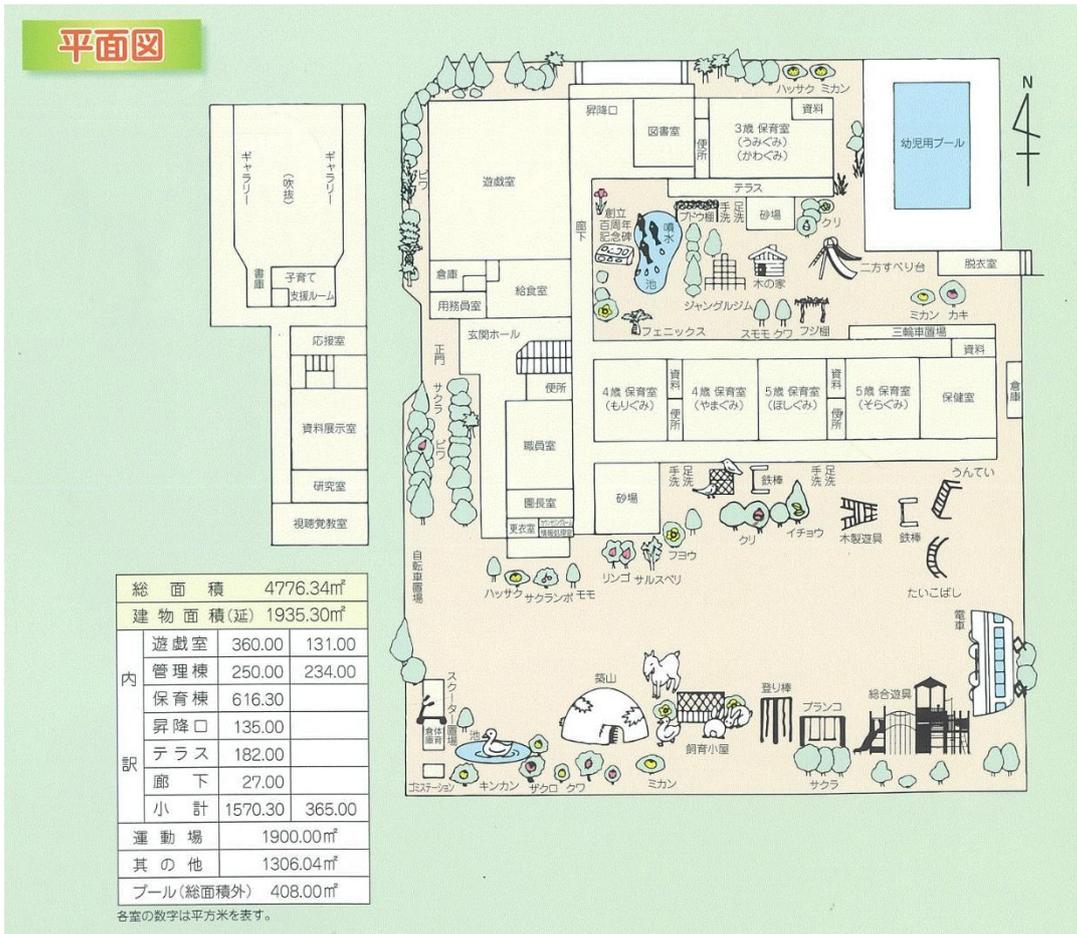
令和8年1月

I. 学校概要

1. 学校名 :	大阪教育大学附属幼稚園
2. 所在地 :	大阪市平野区流町 2 - 1 - 7 9
3. 郵便番号 :	5 4 7 - 0 0 3 2
4. 電話番号 :	0 6 - 6 7 0 9 - 9 4 0 0
5. Fax 番号 :	0 6 - 6 7 0 9 - 6 9 0 0
6. E-Mail :	yochi@cc.osaka-kyoiku.ac.jp
7. Website :	https://f.osaka-kyoiku.ac.jp/fuzoku-se/
8. 通学区域 :	大阪市、八尾市、東大阪市、松原市
9. 園長 :	小松 孝至
10. 副園長 :	小池 美里
11. 主幹教諭 :	橋之爪 美砂
12. 連絡担当者 :	久保 裕
13. 担当者職名 :	学校安全主任

II. 学校統計

1. 園児数 :	1 3 9 名
2. 在籍園児年齢 :	3 ~ 5 歳
3. 常勤教員 :	9 名
4. 非常勤教員 :	4 名
5. 職員 :	6 名
6. 校園種 :	幼稚園



Ⅲ. 本園教育の概要

Ⅰ 本園の特色と役割

1. 附属幼稚園の特色

都会の中にもありながらも、ブドウ、クリ等、実のなる木を多く植え、ヤギ、アヒル等様々な動物を飼育しています。

このような自然豊かな園内環境の中で、身近な人々との温かい触れ合いや生き物たちとの日々の関わりを通して、やさしく温かく、思いやる心を育てたいと考えています。

また、幼児期は「遊び」が大切であると考えています。その「遊び」とは大人が考えるような遊びをさすのではなく、幼児期の「遊び」とは「生活」そのものであると捉えています。一人で、あるいは友達と遊びに没頭する中で、繰り返したり試したり工夫したりしながら、知的好奇心を育てたり、人として生きていく社会性、道徳性を身に付けたりしていくと考えます。

2. 附属幼稚園の役割

- 1) 学校教育法に基づく幼稚園教育を行うこと。
- 2) 幼稚園教育の理論とつながった実践教育を行うこと。
- 3) 本学学生の幼児教育実習を行い、その指導にあたること。
- 4) 地域社会における幼児教育の振興に寄与すること。
- 5) 安全教育や防災教育などについて、地域や関係諸機関と連携しながら取り組んでいくこと。

2 教育目標

「すこやかに あたたく 遊びに生きる子ども」

3 歳児 喜んで幼稚園へ来る子ども

4 歳児 友達を見つけて、幼稚園の生活を楽しむ子ども

5 歳児 友達と心を通わせ、様々な生活に熱中する子ども

3 沿革

明治25（1892）年度	大阪府尋常師範学校（北区中之島常安町）構内に、女子部学生の保育実習を兼ねて幼児を保育する所として附属幼稚園園舎竣工 園児60名を募集 大阪府尋常師範学校附属幼稚園開園
明治27（1894）年度	園児定員を80名（一の組、二の組、三の組）とする。
明治31（1898）年度	師範教育令により、大阪府師範学校附属幼稚園と改称
明治32（1899）年度	女子部の分離独立により、南区天王寺北の山小宮に新築される校地内に園舎を竣工
明治33（1890）年度	大阪府女子師範学校附属幼稚園として開園

明治 4 1 (1898) 年度	園児定員を 90 名とする 女子師範学校の拡張に伴い、従来の敷地西隣に新規購入した土地に附属校舎新・移築落成
大正 1 3 (1924) 年度	組名を薔薇、堇、百合に変更 大阪市に編入される平野郷町より敷地などの寄付を受け大阪府女子師範学校が平野への移転を決定
昭和 2 (1927) 年度	住吉区ひらの流町 254 に大阪府女子師範学校・附属幼稚園等校舎竣工
昭和 7 (1932) 年度	制服制定
昭和 1 8 (1943) 年度	師範教育令の改正により女子師範学校が文部省に移管され再度天王寺師範学校と統合して第一師範学校となったため大阪第一師範学校附属幼稚園と改称
昭和 2 0 (1945) 年度	組名を海、山、空に変更
昭和 2 3 (1948) 年度	大阪の空襲が激しくなり一時休園 (11.15 再開)
昭和 2 4 (1949) 年度	PTA が発足し、PTA 規約が制定された 国立学校設置法により師範学校が大学となり、7.30、大阪学芸大学大阪第一師範学校平野附属幼稚園と改称
昭和 2 6 (1951) 年度	国立学校設置法の改正に伴い大阪学芸大学附属幼稚園と改称 6 組編成となる。(海、川、森、山、星、空)
昭和 3 0 (1955) 年度	平野学園 (幼・小・中) 総合プールの竣工完成式を行う
昭和 3 4 (1959) 年度	附属中学校発足当時の平野分校 3 教室を改装し、観察室、テラス、渡り廊下等を設け年長 2 学級の保育室とする
昭和 3 6 (1961) 年度	プールに隣接して独立園舎の建設にかかる
昭和 3 7 (1962) 年度	新園舎 (現在の建物) に移転
昭和 4 2 (1967) 年度	新園舎竣工記念式典をかねて創立 70 周年記念式典を挙行、園歌及び PTA の歌制定 中央教育審議会答申及び教育職員養成審議会建議の趣旨に基づき学芸大学の名称を教育大学と改めたことにより、大阪教育大学附属幼稚園と改称
昭和 4 7 (1972) 年度	創立 80 周年記念式典を挙行
昭和 4 8 (1973) 年度	大阪教育大学教育学部附属幼稚園と改称
昭和 5 7 (1982) 年度	創立 90 周年記念式典を挙行
平成 4 (1992) 年度	創立 100 周年記念式典を挙行、園旗制定、記念碑建立
平成 1 3 (2001) 年度	併任校園長から選任園長となる
平成 1 6 (2004) 年度	国立大学法人化に伴い、園名を「(国立大学法人) 大阪教育大学附属幼稚園」と改称

平成 20	(2008) 年度	給食室改修、遊戯室・保育室に冷房設置、図書室を 1 階へ移転、「お披露目と感謝の会」を開催（幼児教育振興会事業）
平成 23	(2011) 年度	飼育小屋新築、移転
平成 24	(2012) 年度	創立 120 周年記念式典を挙行、記念の壺作成
平成 27	(2015) 年度	水道管取り換え工事 年長保育室改修工事
平成 28	(2016) 年度	年中保育室改修工事 木の家制作（PTA 事業）
令和 元	(2019) 年度	園舎改修工事
令和 4	(2022) 年度	創立 130 周年記念式典を挙行、総合遊具設置
令和 7	(2025) 年度	平野五校園が平野区と「防災に係る協力体制に関する協定」を締結

IV. セーフティ プロモーション スクール (SPS) の7つの指標

指標1 (組織)	学校内に「学校安全コーディネーター」等を中心とする学校安全推進のための「学校安全委員会」が設置されている。なお、学校安全委員会は、「学校安全コーディネーター」のほか、校長、副校長、主幹等の学校管理職を含む教職員の代表、児童生徒代表、PTA代表、学校を管轄する地域の警察署・消防署の代表、学校のある地域自治会の代表、スクールリーダー等の学校ボランティアの代表等から構成されることが望ましい。
指標2 (方略)	学校において、「生活安全」・「災害安全」・「交通安全」の分野ごとに、セーフティ プロモーションの考え方に基づいた「中期目標・中期計画 (3年間程度)」が設定されている。
指標3 (計画)	学校安全委員会に置いて、「中期目標・中期計画」に基づいた学校独自の学校安全推進のための「年間計画」が、「安全教育」・「安全管理」・「安全連携」の領域ごとに具体的に策定されている。
指標4 (実践)	「年間計画」に基づいて、学校安全委員会を中心に、学校関係者が参加して、学校安全推進のための活動が年間を通じて継続的に実践されている。
指標5 (評価)	学校安全委員会において、実践された学校安全推進に関わる活動の成果が定期的に報告され、それぞれ分析に基づく明確な根拠をもとに学校安全推進活動に対する評価が行われている。
指標6 (改善)	学校安全委員会における次年度の「年間計画」の策定にあたって、それまでの活動成果の分析と評価を参考に、当該校における学校安全に関わる実践課題の明確化と「年間計画」の改善が取り組まれている。
指標7 (共有)	学校安全推進に関わる活動の成果が、当該の学校関係者や地域関係者に広報・共有されるとともに、「協働」の理念に基づいて、国内外の学校への積極的な活動成果の発信・共有と新たな情報の収集が継続的に実践されている。

V. 7つの指標に基づいた取組

指標I(組織)

大阪教育大学附属幼稚園

幼稚園内に「学校安全衛生管理部会」を設置し、その部会内において学校安全に関わる活動の中核を担う「学校安全委員会」を組織し、学校安全に関わる活動を行う。学校安全委員会は「安全主任」のほか、園長、副園長、主幹、学年主任、養護教諭、行政代表で構成されている。

学校安全委員会の構成

		(役職例)：氏 名
委員長	学校安全委員会	・(安全主任)：久保 裕
委員	教職員代表(安全衛生委員会)	・(園長)：小松 孝至 ・(副園長)：小池 美里 ・(主幹教諭)：橋之爪 美砂 ・(年少学年主任)：矢田 美佳 ・(養護教諭)：田畑 奈緒実 ・(行政代表)：今井 菜月
委員	保護者代表	・(PTA会長)：伊原 真弘
委員	警察関係者(関係諸機関)	・(平野警察署生活安全課)： 黒河 雅
委員	消防関係者(関係諸機関)	・(平野消防署地域担当)： 浦山 孝康
委員	市町村危機管理部局関係者(関係諸機関)	・(平野区安全安心まちづくり課)： 黒川 俊浩
委員	地域自治会代表者(関係諸機関)	

大阪教育大学附属幼稚園 学校安全衛生管理部会規定

2026年4月

1. 名称

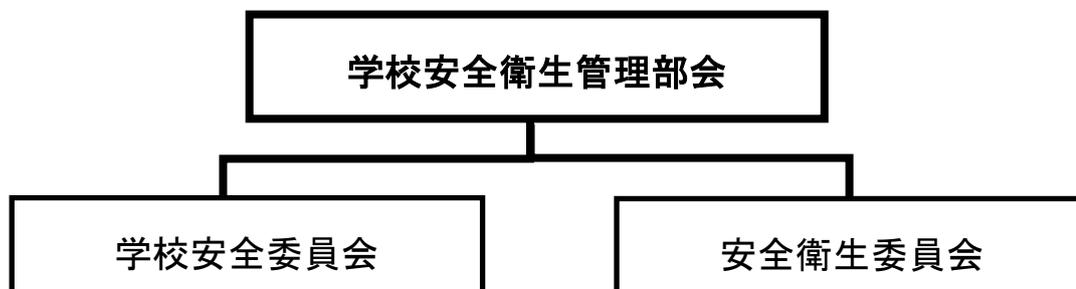
名称を、学校安全衛生管理部会とする。

2. 目的

学校安全（生活安全・災害安全・交通安全）と、教職員の労働災害の防止、労働環境の整備及び改善、健康の保持増進による働きやすい職場づくりを目的とし、学校安全の推進のための体制、並びに労働安全管理体制を整備し取り組みを推進する。

3. 構成

学校安全衛生管理部会は、その傘下に「学校安全委員会」及び「安全衛生委員会」を設置する。



4. 各委員会の目的と内容

学校安全委員会

学校安全（生活安全・災害安全・交通安全）の推進を目的とする。セーフティ プロモーション スクール（Safety Promotion School：SPS）の理念に基づいて、自ら安全に行動したり、他の人や社会の安全のために貢献したりできるようにすることを旨とする「安全教育」、児童生徒等を取り巻く環境を安全に整えることを旨とする「安全管理」、これらの活動を円滑に進め 学校安全推進の取り組みを発信・共有し協働する「安全連携」を持続的に推進していく。

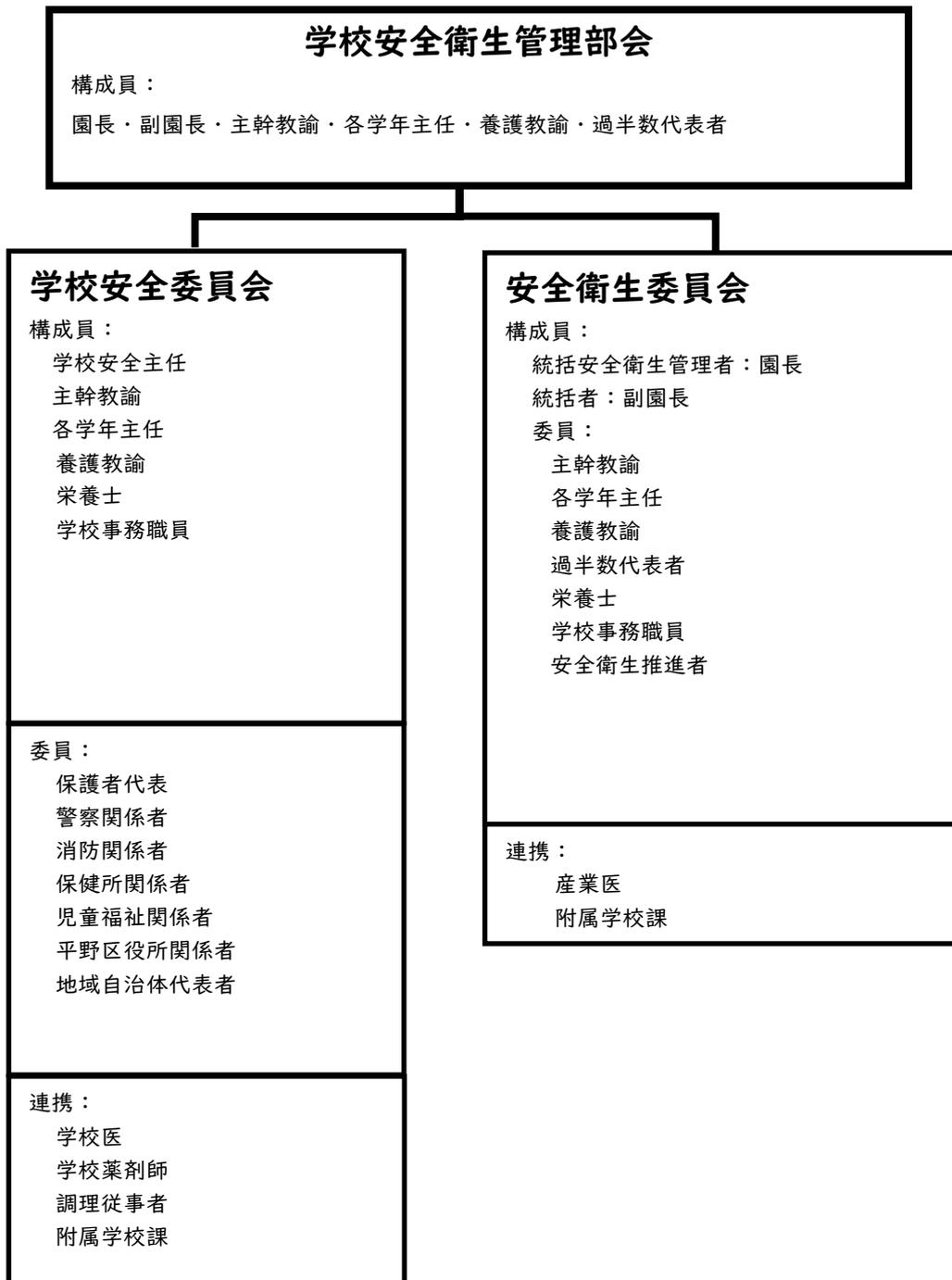
安全衛生委員会

幼稚園における労働安全衛生管理体制の整備を目的とし、教職員が教育活動に専念できる適切な労働環境を確保することで、学校教育全体の質の向上をめざす。労働安全衛生法の趣旨に則り、労働災害防止の取り組みを労使が一体となって行うために、安全委員会、衛生委員会（両委員会を統合した安全衛生委員会）において、労働者の危険又は健康障害を防止するための基本となるべき対策（労働災害の原因及び再発防止対策等）などについて、調査審議を行う。

5. 会議の開催

開催については、学校安全委員会の委員長及び安全衛生委員会の委員長と学校安全衛生管理部会長が協議の上、学校安全衛生管理部会長が決定し招集する。招集者は会議内容により決定し招集するものとする。

6. 学校安全衛生管理部会組織図



指標2(方略)

大阪教育大学附属幼稚園

幼稚園において、「生活安全」・「災害安全」・「交通安全」の分野ごとに、セーフティプロモーションの考え方に基づいた「中期目標・中期計画(3年間程度)」が設定されている。

分野	中期目標・中期計画
<p>生活安全</p> <ul style="list-style-type: none"> ・外傷予防 ・犯罪予防 	<ul style="list-style-type: none"> ・園内で過ごすための習慣や態度を身に付けるため、あつまり等の機会において全体で共通理解をしたり、生活する中でその都度、個別に指導を行ったりする。 →園内安全マップを作成し、教職員、幼児に危険個所を知らせる。 →園内危険個所にポスターを作成し掲示する。 ・園内の危険箇所のチェック体制を強化する。 →教職員以外にも、保護者と一緒に園内点検を行う。 →危険箇所の周知を園全体やクラス単位で行う。 ・専門的な知見を有する関係諸機関と連携し、不審者対応に関する知識と態度を養う。 →教職員の防犯への意識向上と、幼児の発達段階に応じた安全教育を行う。(防犯教室の実施) ・附属平野五校園防犯避難訓練を実施し、平野警察署も含めた連携強化を図る。(安全管理委員会の実施)
<p>災害安全</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地震対策 ・風水害対策 ・火災予防 	<ul style="list-style-type: none"> ・地震、風水害、火災における有事の災害に対する安全な避難を実現する園内体制を確立する。 ・学校安全計画に基づき、教職員の防災に対する意識を高め、幼児の安心、安全を第一とする個の役割を考え、避難誘導と指示システムのスマート化をめざした体制を構築する。 ・平野消防署、平野区役所等の関係諸機関との連携を図り、専門的な知見から効果的な避難訓練の実施または防火・防災学習での自助、共助の体験的な学びを実施する。 ・地域連携を意識した防災体験会を実施する。 ・附属平野五校園との連携を意識した防火・防災体験会を実施する。 ・平野五校園防災研修を実施する。 ・防災避難【幼中高合同】訓練を実施する。
<p>交通安全</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・公共交通機関の使用時のマナーやルール、歩行者や自転車利用者としての規則を守る交通安全教育を行う。 →平野警察署交通課と連携し、各年齢の発達段階に応じた交通安全教育を実施する。 ・通園路の危険箇所を把握し、危険情報の共有化を図ることで幼児の安全確保に努める。 →教職員による巡回指導を実施し、危険情報の共有を図る。 →PTA健康安全委員会によるモデルペアの実施により、親子での危険に対する意識を高める。

指標3(計画)

大阪教育大学附属幼稚園

学校安全委員会に置いて、「中期目標・中期計画」に基づいた学校独自の学校安全推進のための「年間計画」が、「安全教育」・「安全管理」・「安全連携」の領域ごとに具体的に策定されている。

分野	領域	年間計画
生活安全	安全教育	<ul style="list-style-type: none"> ・平野警察、大阪府警の協力のもと防犯教室を実施する。 ・ケースを想定した不審者対応訓練を実施する。
	安全管理	<ul style="list-style-type: none"> ・教職員による各学期の園内点検を実施する。 ・PDCA サイクルに基づく危機管理マニュアルの改訂を行う。 ・教職員による普通救命講習を実施し、救急救命の技術の向上を図る。
	安全連携	<ul style="list-style-type: none"> ・平野警察署生活安全課と連携した、教職員の不審者対応に関する知識と技術の向上を図る。 ・附属平野五校園防犯避難訓練を実施する。
災害安全 ・地震対策 ・風水害対策 ・火災予防	安全教育	<ul style="list-style-type: none"> ・地震、津波または大和川の氾濫時、火災等を想定した避難訓練を実施する。 ・避難訓練と関連付けた防災体験会を実施し体験的プログラムから防災に関する意識を高める。
	安全管理	<ul style="list-style-type: none"> ・本園版「消防計画」ならびに「危機管理マニュアル」の役割分担・任務の遂行を確認する。 ・防災備蓄倉庫の確認、点検を行う。 ・災害時における保護者への連絡体制の確認を行う。
	安全連携	<ul style="list-style-type: none"> ・平野五校園防火・防火学習体験会を実施する。 ・平野五校園防災研修を実施する。 ・防災避難【幼中高合同】訓練を実施する。 ・平野消防署、平野区役所、地域等の関係諸機関と連携を図った火災・地震対応等の避難訓練ならびに防災体験会を実施する。
交通安全	安全教育	<ul style="list-style-type: none"> ・交通等のルールやマナーに留意した、各年齢の発達段階に応じた安全教育を実施する。
	安全管理	<ul style="list-style-type: none"> ・PTA 健康安全委員会によるモデルペアの実施。保護者による朝の立哨活動による安全確認及び、危険箇所等の把握。 ・各学期毎における降園時の降園指導を実施する。
	安全連携	<ul style="list-style-type: none"> ・平野警察署生活安全課ならび交通課と連携し、通園路巡回時の安全確保を図る。

想定	ねらい	幼児の活動	教職員の活動および配慮
<p>火災 (7・9月)</p>	<p>(幼児) ・怖がらずに教師の指示に従って行動する。 ・避難訓練の意味を知る。 (教師) ・各自の役割を確認し、適切な処置をとる。 ・消火器の使い方を知る。</p>	<p>・放送により火災発生を知る。 ・遊びをやめて近くの教師の前に集まり、指示を待つ。 ・ハンカチを口にあてて安全な場所に移動し、点呼を受ける。 ・整列し、避難訓練の話聞く。</p>	<p>・放送により、火災発生を知らせる。 ・消防署に通報する。 ・遊びをやめて静かに放送を聞くように促し、とまどっている幼児を誘導する。 ・窓、出入口、シャッターを閉め、電気、ガスを切る。 ・幼児の点呼をとり副隊長に報告をする。 ・幼児を安全な場所に避難させる。</p>
<p>地震・洪水 (6・10月・1月)</p>	<p>(幼児) ・地震の怖さを知り、身を守る方法を知る。 ・落ち着いて教師の指示を聞き、行動する。 (教師) ・冷静に指示を出し、幼児を安全な場所に避難誘導する。 ・負傷者がいる場合の連絡方法や対応を身に付ける。</p>	<p>・地震発生を知る。 ・遊びをやめて近くの教師の指示に従い、安全な場所にしゃがむ。 ・できるだけ帽子をかぶり、安全な場所に移動して点呼を受ける。 ・(洪水発生時) 中・高屋上へ避難する。 ・整列し、地震の話聞く。</p>	<p>・園内放送で地震発生を知らせる。 ・落下物に注意し、頭部を防災ずきん等で保護させ、幼児を安全な場所に避難させる。 ・電気、ガスを切り、窓、出入口を開放し、避難路を確保する。 ・幼児の点呼をとり副隊長に報告する。 ・負傷者を発見したら教職員間で連携をとり、安全な場所に移動させるとともに、消防署に通報する。 ・洪水発生時は中・高屋上に落ち着いて避難させる。緊急メールを発信し、保護者に迎えに来てもらう。(自転車利用時の誘導を行う)</p>

<p>不審者侵入(6月・11月・2月)</p>	<p>(幼児)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・落ち着いて教師の指示を聞き、機敏に行動する。 <p>(教師)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・周囲や幼児の状態を把握して指示を出し、速やかに安全な場所に避難させる。 ・他の教職員や園外の人、保護者と連携・協力して幼児の安全確保をはかる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・近くの教師の指示に従い、保育室に入ったり、不審者から離れた場所に集まったりする。 ・静かに指示を待ち、指示に従って安全な場所に避難する。 ・整列して点呼を受け、安全が確保されるまで待機する。 ・不審者侵入時の避難訓練の話を聞く。 	<ul style="list-style-type: none"> ・侵入者に刺激を与えないよう対応し、他の教職員に知らせる。必要に応じて笛を鳴らし、回りに危険を知らせる。自動通報装置を押す。 ・警察に通報する。 ・放送によりあらかじめ決めた文言で教職員に知らせ、幼児には近くにいる教師の傍に集まるよう指示をする。 ・幼児を安全な場所に避難させる。 ・幼児の安全を確認し点呼・報告する。 ・必要に応じて幼児を移動させ、危険がなくなるまで待機させる。
<p>プール(6月)</p>	<p>(教師)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・非常時の各自の責任分担を確認し、教職員間で連携・協力して幼児の安全確保をはかる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・太鼓の連打を聞き、速やかにプールサイドにあがる。 ・教師の指示を聞き、点呼を受ける。 ・保育室に戻り、着替える。 	<ul style="list-style-type: none"> ・要救助者を発見し、他の教職員に伝える。 ・幼児を救助しプールサイドにあげる。 ・救助された幼児の様子を確認し、必要な処置を行う。 ・太鼓を連打し、幼児全員をプールからあげ、点呼。 ・必要に応じて救急車要請をする。 ・他の幼児は速やかに保育室に連れていく。
<p>アレルギー等緊急時(4月)</p>	<p>(教師)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・非常時の各自の責任分担を確認し、教職員間で連携・協力して幼児の緊急搬送を行う。 		<ul style="list-style-type: none"> ・アナフィラキシーショックやてんかんを起こした幼児を発見し、他の教職員に伝える。 ・対応する教職員を呼ぶ。 ・該当幼児に薬を服用したり、エピペンを使用したりする。 ・救急車要請を行う。 ・保護者、かかりつけ医師への連絡。 ・必要に応じて、他の幼児を緊急降園する。

指標4(実践)

大阪教育大学附属幼稚園

「年間計画」に基づいて、学校安全委員会を中心に、学校関係者が参加して、学校安全推進のための活動が年間を通じて継続的に実践されている。

分野	領域	活動・実践の内容
生活安全	安全教育	<ul style="list-style-type: none"> ・生活習慣や危機管理等、月毎に安全・保健教育を実施し、各年齢の発達段階に応じた取り組みを実施した。 ・不審者対応訓練の実施をした。
	安全管理	<ul style="list-style-type: none"> ・教職員による担当箇所の園内点検を実施した。(毎月1日実施) ・評価・改善に基づく危機管理マニュアルの改訂(年度末) ・普及員からの教示で教職員の普通救命講習を実施し、再受講を行なった。
	安全連携	<ul style="list-style-type: none"> ・平野警察署生活安全課と連携し、教職員ならびに幼児を対象とした不審者対応訓練を実施した。教職員は生活安全課の指導員からさまざまな講習会を実施し、防犯に関する知識と技術向上を行った。 ・附属平野五校園防犯避難訓練を実施した。
災害安全 ・地震対策 ・風水害対策 ・火災予防	安全教育	<ul style="list-style-type: none"> ・地震、津波または大和川の氾濫時、火災等を想定した避難訓練を実施した。また、同時に保護者への引き渡し訓練を行った。 ・様々な状況を想定した防災体験会を実施し、関係諸機関の防災に関する専門的な知見から各年齢の発達段階に応じた体験的プログラムを行った。
	安全管理	<ul style="list-style-type: none"> ・消防計画ならびに危機管理マニュアルに沿って避難訓練時における振り返りと共有を行った。 ・防災備蓄倉庫の確認、点検を保護者と共に行った。 ・年度当初に有事における幼児の引き渡しについての保護者への連絡体制の周知を行った。また、津波時における引き渡し訓練を実施した。
	安全連携	<ul style="list-style-type: none"> ・附属平野五校園防火・防災学習を実施に向けて検討を行った。 ・平野五校園防災研修を実施した。 ・防災避難【幼中高合同】訓練を実施した。 ・平野消防署、平野区役所、地域等の関係諸機関と連携した防災体験会を実施し、日常生活物品を活用したいざという時の対応や防災に関する関心を高められるような取り組みを行なった。

交通安全	安全教育	<ul style="list-style-type: none"> ・各年齢の発達段階に応じた交通安全教室を実施し、交通のルールを学んだ。
	安全管理	<ul style="list-style-type: none"> ・PTA によるモデルペアや朝の立哨活動を行い、登降園時の安全に関して、危険箇所等を周知する手紙などを配布した。
	安全連携	<ul style="list-style-type: none"> ・各学期毎に教職員が降園指導を行い、園児の登降園状況を把握し、指導を行った。 ・学級 PTA の折に交通安全について保護者同士で話し合う機会を設けたり、学期毎に保護者に向け園長・副園長から啓発するようにした。

指標5 (評価)

大阪教育大学附属幼稚園

学校安全委員会において、実践された学校安全推進に関わる活動の成果が定期的に報告され、それぞれ分析に基づく明確な根拠をもとに学校安全推進活動に対する評価が行われている。

分野	領域	成果と分析・評価
生活安全	安全教育	<ul style="list-style-type: none"> ・月毎の安全教育目標に沿って指導を行い、教職員で幼児の姿の振り返りを行った。 ・幼児対象の防犯避難訓練後に恐怖心がないか、精神的な負担を与えないような指導や本園の防犯マニュアルに沿って教員の誘導等、スムーズに避難をすることができた。
	安全管理	<ul style="list-style-type: none"> ・月毎の安全点検では、不良箇所等を発見した際は、担当者が改善の要請をして修復・修繕をすることができた。 ・訓練後には即時に反省会を実施し、PDCA サイクルシートを用いて事後の改善に努めた。 ・ほとんどの教職員が普通救命講習を受講し、消防局発行の修了証再受講記録を更新することができた。
	安全連携	<ul style="list-style-type: none"> ・平野警察署生活安全課と連携し、幼児、教職員対象の避難訓練やさすまた講習を実施することで、個人の防犯に対する意識と技術を向上することができた。 ・緊急時の連絡体制や附属五校園としての連携の在り方を考える機会となった。
災害安全 ・地震対策 ・風水害対策 ・火災予防	安全教育	<ul style="list-style-type: none"> ・各避難訓練において、様々な状況を想定したなかで本園の火災、地震、津波時マニュアルに沿って教員の誘導等、スムーズに避難をすることができた。 ・防災体験会では、火災避難訓練から各プログラム体験を実施した。水消火器、毛布で担架、防災品クイズ、紙食器づくり、のブースを設けて取り組み、幼児が意欲的に楽しんで防災を学ぶ機会となった。また、煙テント、簡易トイレ体験、AED体験は親子で体験する機会を設けることにより、家庭で防災について話し合う機会となった。
	安全管理	<ul style="list-style-type: none"> ・消防計画ならびに危機管理マニュアルに沿って避難訓練を実施し、PDCA サイクルシートを用いて事後の改善とマニュアル修正に努めた。

		<ul style="list-style-type: none"> ・防災備蓄倉庫の期限等の確認、更新を行なった。 ・学級 PTA の折などに保護者に園内の非常用装置等の場所を確認してもらったり、備蓄庫の確認を行ったりしてもらった。保護者もともに園内の安全管理を行おうという意識が高まった。
	安全連携	<ul style="list-style-type: none"> ・附属平野五校園防火・防災学習を実施に向けて共通理解を図ることができた。 ・平野五校園防災研修を実施したことで、防災に対する共通理解を図ることができた。 ・防災避難【幼中高合同】訓練では、高校生と一緒に避難することができた。 ・地震・津波の訓練では隣接する附属中・高等学校と合同の訓練を行い、連携して幼児・生徒を誘導できるよう共通認識ができた。
交通安全	安全教育	<ul style="list-style-type: none"> ・交通安全教室では平野警察に来ていただき、各年齢に合わせた指導ができた。年中・少はビデオ鑑賞を行い、警察の方の話を聞くことで、理解しやすかった。年長は室内に設えた道路や信号機を使用し、実際に体験することで安全に対する意識が高まった。 ・園外保育では公共の交通機関を使用することで、集団で交通安全について学ぶ機会となった。
	安全管理	<ul style="list-style-type: none"> ・登降園マナーのしおりを作成し、交通のマナーやルールを保護者にも徹底した。保護者の意識の変化により、幼児も安全に関する意識が高まった。
	安全連携	<ul style="list-style-type: none"> ・モデルペアの実施により、安全に関する意識が高まった。モデルペア実施後のアンケートでは、ルールやマナーを守って登降園できたという回答がほとんどであった。

指標6(改善)

大阪教育大学附属幼稚園

学校安全委員会における次年度の「年間計画」の策定にあたって、それまでの活動成果の分析と評価を参考に、当該校における学校安全に関わる実践課題の明確化と「年間計画」の改善が取り組まれている。

分野	領域	課題への対応と改善
生活安全 ・外傷予防 ・犯罪予防	安全教育	<ul style="list-style-type: none"> ・毎月の安全教育目標に沿って指導を行ってはいるが、今後は安全教育の保護者への啓発、発信や幼児の発達段階に応じた体験的な活動プログラムを考えていく。 ・幼児の安心、安全の確保とよりよい避難誘導の支援のあり方を継続して考察する。 ・附属池田中学校の実践を参考に、本校でも児童・生徒視点の安全点検を考えていく。
	安全管理	<ul style="list-style-type: none"> ・担当の教職員のみでの安全点検ではなく、幼児や保護者の視点を取り入れながら、一緒に日常的に身の回りのリスクに気づくことができるようなチェック体制を整える。
	安全連携	<ul style="list-style-type: none"> ・専門的な視点の振り返り内容を参考にし、幼児の視点も汲み取ったPDCAサイクルとなるように改善に努める。
災害安全 ・地震対策 ・風水害対策 ・火災予防	安全教育	<ul style="list-style-type: none"> ・園内だけではなく、地域や附属平野五校園との具体的な連携強化に向けた避難マニュアルの体制づくりと避難訓練の実施を考えていく。
	安全管理	<ul style="list-style-type: none"> ・今後も保護者を含めた地域との連携を考えていく。
	安全連携	<ul style="list-style-type: none"> ・関係諸機関の連携強化のみならず、専門的な視点を持った助言（民間企業等）の誘致や附属平野五校園と共同した取り組みの実践を考えていく。 ・来年度の平野五校園防災研修は、各校園と連携を図りながら実施する。 ・来年度の防災避難【幼中高合同】訓練は、今回の反省事項を踏まえながら実施する。
交通安全 ・被害予防 ・加害予防	安全教育	<ul style="list-style-type: none"> ・平野警察署との連携をさらに強め、専門的な視点からの教示と体験的なプログラムの実践を考えていく。
	安全管理	<ul style="list-style-type: none"> ・安全委員会や保護者と連携を図り、登降園時におけるより具体的な学校安全体制の構築と協力体制を考えていく。

	安全連携	・危機管理と学校安全の重要性を発信しながら、保護者や地域の協力を得て登降園時の指導・支援体制を考えていく。
--	------	---

指標7(共有)

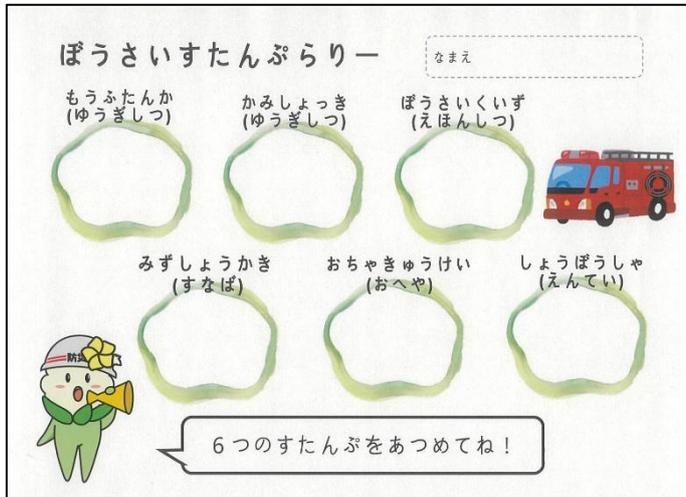
大阪教育大学附属幼稚園

学校安全推進に関わる活動の成果が、当該の学校関係者や地域関係者に広報・共有されるとともに、「協働」の理念に基づいて、国内外の学校への積極的な活動成果の発信・共有と新たな情報の収集が継続的に実践されている。

分野	領域	成果の共有と協働
生活安全 ・外傷予防 ・犯罪予防	安全教育	・職員会議での連絡、共有 ・家庭通知、保健だよりによる啓発 ・PTA ホワイトボードへの掲示、啓発 ・あつまり、各クラスでの幼児への周知
	安全管理	・家庭通知、保健だよりによる啓発 ・PTA ホワイトボードへの掲示、啓発 ・ホームページへの掲載
	安全連携	・危機管理マニュアルの内容の助言、改善 ・平野警察署との連携 ・平野消防署との連携 ・平野四校園との連携
災害安全 ・地震対策 ・風水害対策 ・火災予防	安全教育	・職員会議での提案、協議 ・避難訓練を通じた幼児、保護者への周知 ・家庭通知による報告 ・ホームページへの掲載
	安全管理	・平野消防署、平野消防署、地域等の関係諸機関との連絡協議会にて提案、協議
	安全連携	・家庭通知による報告 ・平野消防署、平野消防署、地域との連携 ・平野四校園との連携
交通安全	安全教育	・職員会議での共有 ・家庭通知による報告
	安全管理	・家庭通知による共有 ・立哨アンケートのよる共有
	安全連携	・平野警察署交通課、保護者との連携

防災体験会の実際

○防災体験会スタンプラリー



○水消火器



○毛布で担架



○紙食器づくり



○防災クイズ



○煙テント



○簡易トイレ



○AED 体験



○消防車体験

